

親 師 会 報

第 156 号

発 行
新潟県立新津高等学校
親 師 会
☎0250(22)1920

会 長 挨 拶

親師会長 清 水 かおり



会員の皆様には、日頃より親師会活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度の活動がスタートしてから早いもので3分の2以上が過ぎました。感染症の大きな流行もなく、学校活動が行われていることを大変うれしく思います。

9月には2学期の大きなイベントである「秋陵祭」が行われました。様々な制限が緩和され、思う存分楽しんでいる生徒の姿は、とても生き生きとしていました。大変多くの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。

そして10月には「人権講話」、11月には秋陵会と共催の「文化講演会」が行われました。「人権講話」では、世界の難民問題についてわかりやすくお話しいただき、改めて身近な課題として考える良いきっかけとなりました。「文化講演会」では、宇宙情報通信技術について、とても夢があり惹きつけられる内容のお話をいただきました。どちらの講演も、これからの日本や世界との関わりを考えていくうえで、大変貴重な機会となったことは言うまでもありません。また、真剣な眼差しで話を聞き、質疑応答では次々と挙手し質問する生徒の姿に感心し、講演に参加できて喜びもひとしおでした。

さてこの会報誌が皆様のお手元に届くころには、3年生は自身の目標を決め、受験本番に向かっていることと思います。年が明けると、いよいよ本番です。自分を信じて、仲間を信じて、先生を信じて、目標に向かって進んでください。頑張った先に、自身の描いた光景が広がっていることを祈っています。

3学期は、親師会としても締めくくりの時期になります。来年度にスムーズに引き継げるよう活動してまいります。

引き続き皆様からのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

※秋陵祭当日、親師会教養部と生徒会執行部が中心となってキッチンカーを出店しました。今年は「窯焼きピザ屋」と「クレープ屋」の2店舗でした。



人材育成の不易流行について学んだこと

校長 小林 英 明



保護者の皆様には日頃から本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、私は8月22日・23日に開催された「第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会」に参加してきました。記念講演では、「人材育成の不易流行」という演題で、二所ノ関寛氏のお話を聞きました。二所ノ関親方は元横綱稀勢の里で、海洋高校出身の大関大の里の師匠です。講演で印象に残っていることを、感想を交えて紹介したいと思います。

二所ノ関親方は茨城県出身で、横綱引退後に早稲田大学大学院で学び直しました。ゼミの同期6人には社長なども多かったとのこと。相撲部屋は両国付近につくるのが暗黙の了解でしたが、ゼミの中で茨城につくるべきだという意見を聞いてメリットが大きいと思ったそうです。その1週間後、茨城県の阿見町に1800坪の土地が売りに出されたとき、運命だと思って購入しました。そして、大学院修了後半年で二所ノ関部屋をスタートさせました。当時の弟子はたった4人。今は18人になりました。

二所ノ関部屋の育成方法①は次のとおりです。一般の相撲部屋は、1つの土俵にかまぼこ力士（土俵の外の板塀に背をくっつけ稽古をサボる力士）、1日2食、相撲を毎日とる。二所ノ関部屋は、2面土俵で集中して稽古時間短縮、1日3食、相撲をとらない日をつくる（毎日とると首、膝、脳に負担）、基礎運動（四股、すり足、テッポウ）を最重要視。

二所ノ関部屋の育成方法②（生活面）は次のとおりです。入門した平成14年頃の一般の相撲部屋は、はっきりした縦社会、竹刀でたたき水も飲めない、休みがなく昼寝する時間もない。現在の二所ノ関部屋は、番付順を規律とするが全員がフラットな立場、雑魚寝ではなく少人数の個室、コンプライアンスを重視した環境（暴力根絶、対話を重視）、分担制度を導入し休みを明確化・稽古内容も明確化。若い力士は、言葉で言うだけでなく映像を見たときの入り方が昔と違うので、タブレットを使いながらアドバイスもするそうです。

二所ノ関部屋の育成方法③は次のとおりです。どんな力士を育てたいか＝皆様に愛され怪我に強い力士。どのように力士を育てたいか＝受け身ではなく自分自身で考え抜くよう指導。10教えたいが3～4しか教えないようにしているとのこと。10教えると、型が決まってしまうのでそれしかできなくなる（伸びしろがなくなる）。選択肢を1つ増やすとよい方向に進むので、常に自分の頭で考えさせるそうです。

学校教育においても、教師が全部教えてしまうのではなく、学びを生徒に委ねることが重要になってきています。分野が違って共通なのだと思います。二所ノ関部屋の育成方法全体を通して、伝統を大切にしながら新しいものを取り入れることを重視しているといえます。変化の激しい時代、私たちが新しいものに挑戦する勇気を持つことが大切だと感じました。

結びになりますが、受け身ではなく自分自身で考え抜く人に育てていくことは、相撲部屋でも学校でも家庭でも同様に大切なのではないのでしょうか。今後とも保護者の皆様、学校、地域などが力を合わせて取り組んでいきたいと思いますので、一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

進路指導室より

進路指導主事 小林 穰

○1,2学期を終えて

暑い夏が終わると長いようであった1年もあと3学期を残すだけと、寒さの到来と共に今年度の終わりもすぐそこに見えてきます。時間はそれぞれの人の感じ方、過ごし方で長かったり、短かったりと様々です。学年によっても保護者の方の感じ方も違っていることと思います。

しかし、生徒は大学合格というゴールに向けて着実に進んでいます。この決められた時間をいかに効果的に過ごすことができるかが、卒業後の結果につながります。

○入試状況の変化

上級学校進学に関するニュースが多く見られる時期となりました。少子化による18歳人口は昨年の卒業生が最も少なかったのですが、また少しずつ増加傾向となっています。しかしながら、文科省の発表では2040年の大学定員充足率は70%になると見込んでいます。新潟県は62%という見込みがでています。つまり今年度でもすでに私立大学定員充足率が100%ではない大学が約60%あると言われていています。学部の特徴がある大学、就職率が良い大学といったように、大学の中身で受験生を集める必要が大学側にもあるのです。ではみなさんはすべての大学の中身を知っているのでしょうか。たくさんの情報がありますが、必ず自分の目で判断して欲しいと思います。そのためには早くから多くの大学について保護者の方も公式な情報源を大学HP等を見て知る必要があります。

次に「年内入試」の増加が話題となっています。「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「私立大学の特待生選抜」といった選抜形式がそれにあたります。9月頃から出願が始まり、11月から受験が始まり、12月から年明けに合否がわかる入試です。大学は学力知識だけでなく、多様な能力を持つ人材を評価する目的で、他の方式の定員をこの入試方式に移してきています。

では多様な能力や才能はなにかというと、「高校時代に主体的に取り組んだこと」「その大学、学部を目指す強い気持ち」「自分が関心を持っている社会問題」等です。先に述べたように、高校時代はあっという間です。活動に取り組むには、自分が学びたい学問がきまっていなければ、その分野での活動に取り組むことはできません。たとえば、上越教育大学の「新潟次世代教員養成プログラム」、金沢大学の「超然特別入試(A-lympiad選抜)」をはじめとし、高校生のときから参加する制度が多くあります。3年生の夏になってから受験を考えて、総合型選抜で出願しようと思ったときに自分を振り返り、アピールすることが何もないとすれば受験できる制度ではないということを理解してください。

最後に「理系女子枠」を設置する大学が増えていることです。科学技術の分野で活躍する女性を増やし、さ

まざまな視点からの考えを用いて、さらなる研究技術の向上を目指そうという狙いです。「女子は理系分野が苦手」という概念から女性が理工系に進まなかったために、女性の学生割合が少なくなっていました。研究者としても女性の割合が少ないため、この制度で学習する女子生徒が増えれば、女性が理科学分野で活躍する場が広がることでしょう。

同じように、工学部には文系の人は進めないのが今までの常識でしたが、これからは物を作るだけでなく、販売、宣伝といったマーケティングまでを行える技術者が求められています。そういった意味でも、自分のやりたいこと、興味関心を広く持ちながら大学選びをして欲しいと思います。

○総合的な探究の時間

総合的な探究の時間での活動はまさに、これからの大学での研究や、社会に出てからのスキルの基礎となる力を身に付ける時間となっています。「独自の視点をもつ」「人と協働して作業をする」「人にわかるように説明する」「他者の意見を聞いて考える」といった観点がすべて網羅されています。2月には1,2年生の合同発表会が校内で、3月には代表班の発表会が秋葉区文化会館であります。3月の発表会には保護者の方からぜひ来場して、あるいはライブ配信で生徒の様子を見ていただければと思います。

○3年生の保護者の皆様へ

進学先が決まった人は高校生活を有意義に過ごして欲しいと思います。これから受験を控えている生徒がほとんどです。卒業まで新津高校生として自覚を持った行動を取れるようにご指導お願いします。受験生としては、年末年始の過ごし方が大切になります。お子さんが受験生であることを家族全員で意識して見守ってほしいと思います。1月に面談をすると、「正月は客がたくさんきてうるさくて勉強できなかった」と話した生徒もいました。生徒自身が自分で目標を意識して取り組むこの時期の学習が最も成果が出ます。1分1秒をも大切にして受験に取り組んでください。

大学への出願に際して、Web上での入力、顔写真のアップロード、受験料の支払い、郵便局窓口での簡易書留による郵送、受験のための宿の手配等、保護者の方の手助けをお願いする場面が多くあります。例年出願の手続きミスによる大学からの問い合わせがあります。試験学力以外で失敗や不安を持たないでよいように、ご支援をよろしくお願いします。最近「募集要項」はWebだけの大学がほとんどです。ついスクロールしすぎて読みとばし、手続きの指示を見ていなかったというケースが見受けられます。手順に沿って正確に出願、受験を進められるようにしてください。

編集
後記

11月5日(火)に秋陵会・親師会主催の文化講演会が、JAXAの川崎繁男先生を講師に招いて行われました。講演を聴いて宇宙の壮大さを改めて認識するとともに、「人が思いつかないこと、やろうとしないことをやってみよう」という川崎先生の信念が、宇宙に対する探究心やチャレンジ精神の原動力となっていることに気づかされました。今回の講演会を機に、宇宙開発に携わる人材がこの新津高校からも巣立っていくことを願うばかりです。

学校行事の写真を掲載しました。紙面の関係で多くは紹介できませんが、生徒の活躍ぶりが少しでも皆様に伝われば幸いに存じます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。